



恵明新聞

No.119

令和7年6月2日発行

『不二見地藏尊祭り』

令和七年五月三日、前日の大雨雷竜巻警報がうそのように晴れ渡り、木立を抜けて心地よい風が『南無大菩薩』のぼりを揺らしていました。龍澤寺高井文明氏はじめ三名の僧侶の読経が心地よく耳に届いてきます。五月晴れの空に鯉のぼりが泳ぎ、本当に気持ちの良い日でした。

三島市笹原新田にある静岡恵明学園児童部の不二見地藏尊のお社の前には色とりどりのテントが張られていました。ボランティアの皆さんが模擬店を催してくれています。

お祭りの会場には地域の家庭、ステップファミリー、シングルファミリー、里親家庭、乳児院、児童養護施設等様々な家庭環境で生活をする子ども達、誰もが同じように祭りを楽しんでいます。

どんな環境で育つ児童であってもその個性が尊重され、生まれてきてよかったと感じられる生活を積みかさねて自己肯定感をもった大人になることを私は希望します。

この世に生まれたすべての子ども達が周りの大人から大切にされ、明日に向かって活力あふれる生活を送ることが大切であると思います。

不二見地藏尊は、子ども達の思いを温かく見守っています。また会場に心地よい風がふきました。子ども達や私たちの願いを不二見地藏尊が聞き入れてくれたように思いました。

社会福祉法人 静岡恵明学園

理事長 杉村 伸一

山の家だより

子どもから学んだこと

静岡恵明学園で働き始めて一年が経ちました。この一年を一言で言うとう波瀾万丈です。どんなことがあっても平常心でいなくてはいけないと思っていた私の気持ちにはお構いなしに、様々な出来事が起こり、平常心とは程遠い毎日を過ごしています。

始めはそんな日々慣れず、一喜一憂してしまう毎日でした。

しかし、時間が経つにつれて子どもたちから学んだことがたくさんあることに気付きました。

特に学んだことは、人の在り方や温かさです。子どもとぶつかる事はもちろんありますが、励まされる事や元気の出る温かい言葉を貰うことも沢山あります。部活で頑張っている子どもの姿を見ると自然に自分も頑張ろうという気持ちにもさせてもらいます。

そして、自分らしく過ごすことの楽しさを教えてもらいました。

子どもたちと過ごす中で、時には怒る事もあります。

たたくさんの笑顔を見たら、心から笑えることが増えたと思います。

また、職員との関わりでも人の温かさを感じています。温かい言葉や行動で、たくさん救われてきました。

そんな言葉を掛けてくださったからこその私が在ると感じています。

この仕事は、人と人との繋がりや大切さや人からもらう温かさを身に染みて感じる事のできる仕事だと思っています。

一緒に働く職員の方、子どもたち、支えて下さる方からの言葉を当たり前にせず、日々感謝を忘れずに過ごして行こうと思います。

大石 沙彩(保育士)



さくらの家だより

世間一般的に労働基準法第三十二条により労働時間は一日八時間とされており、もちろん恵明学園児童部もそれに則って動いている。

ただここで一つ疑問が浮かぶ。子どもたちを育てるために時間制限が設けられてよいものなのだろうか。大炎上どころか超炎上級の発言をしていることは百も承知である。しかしながら、子どもたちの人生に関わらせてもらっている身としては、とてもではないが八時間では

間では納得のいく関わりは出来ないのである。実力が無いからであるとか、そのためのシフト制だと言われればそれまでだが、そもそも親が時間どころどころ変わる家庭などあるだろうか。極めて特殊な場合(あるかどうかは知らないが)を除き、そのようなことはまずないはずである。一貫した関わりが安全



基地としての役割を果たすのであり、「おはよう」の顔と「おやすみ」の顔が同じだからこそ子どもたちは安心するのである。

ぶっちゃけてしまえば私はとって労働基準法第三十二条は仕事の事においてはいくそくとしてある。おつと、失礼。心の声。

私は十五年間施設に住み込み、子どもたちと生活をともにしている。それでも関わり方を追求すればするほど終わりは見えず、試行錯誤し、一喜一憂しながら日々を過ごしている。養育にとつて何が一番大切なのか。子どもたちの最善の利

益とは何なのか。悩みは一向に尽きることはない。

ただ一番大事なのは「そこに愛はあるのか」ということである。某TVCMが脳内再生されそうな言葉だが結局はそこに尽きるのである。世のしがらみなんて気にせず、何かあれば駆けつける唯一無二のヒーローが私たちなのではないだろうか。

溝口 翔平(児童指導員)

はなみずきの家だより

嬉しい言葉

私のはなみずきの家にお勤めさせて頂いてから早いもので三年近くになりました。

三人のヤンチャな息子達を、ほぼワンオペで育て、七人の孫のいる私は子供と接するのは、得意な方だと

思っていました。それぞれにいろいろな事情により特殊な環境におかれた子供達の気持ち等を、慮ってあげる事ができず、戸惑う事が多々ありました。

それでも月日を重ね、職員の方々の子供達に接する優しさや、我慢強さに、日々感心し励まされ何とか勤めさせて頂くことができています。

また、夜に帰宅する私に、毎日「暗いから、気をつけて帰ってね」と声を掛けてくれたり、「樋口さんのおにぎり、このコンビニョり、美味しいよ」などと、時にはホロリと、時にはキュンとさせられる言葉に、元気をもらって、日々頑張るお姉さん、お兄さんや、孫の様な子供達の為に、ほん

樋口 てるみ(用務員)



「子どもの権利」

「子どもの権利」って考えたことはありますか？今は小学生の道徳の教科書には「子どもの権利条約」が載っています。子どもがワガママになるんじゃない？いえいえ、そういう事ではないのです。子どもも大人と同じようにひとりの人間として尊重しようというものです。そのためには「差別はない」「命とともに健全に成長する」「子どもの意見が尊重される」「子どもにもっともよいことを」など4つの柱があります。子どもはいつか大人になります。親に・地域の方に・園に・学校 etc...どんな風に関わってもらったかはとても大切ななどこの仕事をしているといつも感じています。

褒め言葉のシャワー

「ろ先生」って千尋先生のこと呼んでるんですよ」と、スマイル広場に遊びに来ているお母さんが教えてくださいました。娘さんは2歳になったばかり。言葉のレ

日々の生活があります。頭ではわかっていても気持ちでは割り切れないことだって沢山ある。なのでお互いに気持ちよく生活をするための方法を探していけば良いのかもしれないね。

福室 あゆみ
(里親サポーター)



パートリもまだそんなに多くない中で、自分の名前を呼んでくれていることが嬉しくて、感激しました。子どもは生まれてから一つひとつ、行動、言葉を学習していきます。新しいことを学習すると褒められますが、習慣になっていることは「当たり前」となって褒められることが少なくなります。私の息子はトイレでうんちが出来るようになるまで



時間がかかりました。(ずっとオムツのままなんじゃないの！?)と焦ったこともありましたが、一人でトイレに行くことが習慣になり、悩まされていたことも忘れ、今は指しゃぶりと格闘中です。でも時々、トイレから帰ってくる息子に「一人で行けて偉かったね」と声を掛けると、小学2年生の娘が「私は？」と褒め言葉を待ち構えています。(いやいや7歳は行けて当たり前)と思うつつ、「そうだね、一人で行けて偉いよね」と伝えています。子どもは誰でも褒められたら嬉しい！大人だってそうですよね。今出来ること、習慣になっていることでも、褒められたらどんどん自信がついて「次はこれやってみよう」と意欲が高まり、色々なことに挑戦する勇気が湧き出てくるのです。

水曜日に開かれているスマイル広場では、明るく温かい雰囲気の中で、日常の困りごとや世間話などの会話が溢れています。子どもも大人も褒めてもらえます。ぜひ足を運んでみてください。古郡 千尋(心理療法士)

七草

ボランティア File No.10



高木 正勝さん

高木さんは地域の関わりを大切になされ、地元の坂小学校の児童減少が大きな問題になった時、坂小学校児童減少対策委員会(現在は坂地区活性化協議会に変更)の会長を務められ、坂小学校の小規模特認校制度を確立し、現在の坂小学校存続に貢献されました。

今では地域の方々と夏みかんのマーマレード作り、地元の白菜を利用してのキムチ漬け、地域の老人会での馬鈴薯栽培(種付けから収穫まで)などの活動に精力的に取り組まれています。

「ものを作ることは子どもを育てるのと同じだよ。」と農業指導をしてくださった時の高木さんの言葉は大事にしています。地域の方との関わりやもの作りや子育ては対象をよく見る、こと、気持ち(愛情)を注ぐことなど高木さんから教えていただいたことをみんなが実践に生かしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。



赤ちゃん センター



乳児部

経験

いつもお部屋に入ると「めいちゃん抱っこ」と駆け寄って来てくれる日ちゃん。私は日ちゃんと関わらせてもらう時間が多く、嬉しいこと、楽しいこと、時には苦しいことなどたくさんさんの経験をさせてもらいました。

食事や遊びの中で突然始まる痙攣。何が嫌だったのか、何を求めているのか分からず、日ちゃんも自分の気持ちに伝わらないことにもどかしさを感じているようにでした。日ちゃんは私を求めて来てくれるけれど、私はその気持ちに伝えられてい

るのか分からず、不安や葛藤もあり、その不安が日ちゃんに伝わっていたこともあったように思います。私は日ちゃんの気持ちに寄り添えるよう、同期や先輩方に相談をし、たくさん助けてもらいました。毎日、関わり方や言葉掛けの仕方など試行錯誤しながら色々な方法を試し、ご飯を食べられた時、お散歩に行くことができた時など、小さなことでもHちゃんの成長や心が通じ合ったことがとても嬉しく、私の心の不安が晴れる瞬間でもありました。



ますが、日々難しさも感じています。自分自身、毎日の経験から色々なことを吸収、勉強し、周りのお姉さん達と協力をしながら、子どもの理解に努めていきたいです。子どもたちにとくさんの元気をもらっていること、成長させてもらっていることに感謝をし、子どもたちと共に成長できたと思っています。

渡邊 愛衣(保育士)

チーム「乳児」

私事の話で申し訳ないのですが、四年前の春心身の体調を崩してしまいました。目の前のこども達の笑顔が自分の心に響かないの

です。急にザワザワと何とも言えない不安感に襲われ、その場にいらなくなると、辛い日々でした。

そんな時、上司や同僚後輩の皆さんの言葉に沢山助けをもらいました。「ずっと頑張ってきたんだから、今はゆっくりと心身を休めて。今後同じような症状になった人の気持ちを理解しアドバイス出来るのは優子姉ちゃんだよ。待ってます。」「今は自分ファーストで」子育て中の後輩からは、「いつも私も助けてもらっています。お互い様ですよ。」等々。また、日々のこども達の楽しいエピソードを教えてくれたり、気分転換に食事に誘ってくれたりしました。

このように職場の皆さんと家族に支えてもらい復帰の日を迎えられました。復帰の前日は、とても緊張していた(こども達は覚えてくれているかな)(体が動けるかな)様々な不安がありました。

「ゆうこ姉ちゃん! 髪切ったの?」「お肉いっぱい! プヨプヨ!」と私の体をもみもみする大きい子組さん。小さい子組さんは、すーっと私の膝に座っ

挨拶

鈴木 優子(保育士)

どんな子どもがいるんだろう? どんな生活が待っているんだろうと、不安とワクワクを抱えながら乳児部へ勤めてあつという間に一年が経ちました。優しくたくさんのことを教えてくださる先輩のお



てくれました。その何とも言えない優しい柔らかさと香りに、心がフワッと軽くなりました。こどももつてすごいパワーを持っていると改めて感じた瞬間でした。

今でも誰かが急に欠勤になってもすぐに勤務体制を組み直し対応する、このチーム「乳児」の支え合いの精神。このチームの一員であることに、日々感謝しております。

出勤をすると必ず大きい子組と小さい子組どちらにも「おはようございます」と挨拶をします。一年目の大きい子組のときには、挨拶をして部屋へ入るとTくんが私の隣まで来て「だっこ」と手を伸ばしてくれていました。

子どもたちと一緒に生活をするなかでコミュニケーションをとることは子どもたちのことを知るためにも必要なことだと思うので、これから先もずっと大切にしていきたいです。

岩崎 まどか(保育士)



ろうという気持ちになります。

乳児部へ勤めるようになって改めて挨拶は大事なことで感じています。挨拶をすることで言葉を話す子どもたちからは「おはよう」と挨拶を返してくれ、まだ言葉は話さないけれど赤ちゃんたちはニコッと笑ってくれます。挨拶で子どもたちとのコミュニケーションをとることができるので、これからも挨拶を大事にしていきたいです。

恵 明 保育園

楽しく食べる 子どもに

食育とは何か、という、「健康な生活を送るために食に関するいろいろな知識を育むこと」です。

離乳期は、色々な食べ物を見て、触って、食べる体験をして、自分で食べようとする力が育ちます。「手づかみ食べ」も大切なことです。

な時期で、「たくさん遊んでお腹が空いて食べる」を繰り返すことで、規則正しい生活リズムを作ることができます。又、保育園給食ではお家で食べ慣れない献立や四季にわたる旬の食材がたくさん出て来ますが、保育園のお友達や大人と一緒に会話をしたり楽しく食べることで、食べたい物や好きな物もどんどん増えていきます。今日は保育園でこんな物食べたよ。美味しかったよ。と家庭でも子どもと会話がはずめばいいなと思います。食事作りには、食材の色や香り、音、食感、味など子ども達の五感と好奇心を刺激する発見と驚きがたくさんあります。「給食のおねえさん、おいしかったよ。」とニコニコ笑顔で声をかけてくれる子もいて、とても嬉しく思います。保育園の子どもたちにも楽しくおいしいう給食を食べてもらえるように貢献していきます。



勝又 沙織
(栄養士)

共感しながら

新たな春がやって来ました。私は今年度も一歳児クラスの担当をさせて頂いています。

時の経つのは早いもので恵明保育園で再びお仕事をさせて頂く様になってから四度目の春を迎えた事に気づき驚きました。そして今年度も個性豊かなかわい子達が入園し賑やかな新年度がスタートしました。入園当初は涙、涙だった子ども達も日を追う毎に涙が減り保育園の生活に少しずつ慣れ、甘えて抱っこを求める様になったり今日は涙せずに食事が出来た！入眠出来た！など「出来た」の数々が次々増え、成長を感じられます。全員が落ちついて遊んでくれる様になった時は本当に良かった。



に良かった。これで大丈夫。と子どもの楽しんでる姿を見て嬉しくなり心がほっこりします。

そんな子ども達はお散歩が大好きです。さっきまで涙していたかと思つた子どもも玄関から外へ出ると心地良い風や景色、空気に触れていつの間にか涙が止まってしまふ事もしばしば。園庭ではそれぞれの好奇心に従って活動開始。おままごとやあんよの練習、芝マツトシートや象さん滑り台チャレンジ、虫探しなど自分の「好き」や「楽しい」を見つけて目がキラキラ。お



散歩は子ども達にとって学びの宝庫なんだと実感します。

お散歩で子ども達の「好き」や「楽しい」を一緒に共感させてもらえる事は私にとつて貴重で楽しい時間です。そんな時間を大切にこれから先、色々な沢山の場面でも子ども達と触れ合い共感しながら楽しく穏やかに過ごしていけたらいいなと思います。

石井 慎子(保育士)

一人ひとりを 見つめて

うらかな春の訪れと共に、新しい一年がスタートしました。今年度は2歳児のクラスを担当し、昨年一年間を過ごした子ども達と一緒に進級させて頂きました。

一つお兄さんお姉さんになってお部屋も変わり、自分のシールの貼ってあるイスに座ったり、シール帳にシールを貼ったり、朝の会ではうたを歌ったり、ドキドキしながらも嬉しそうな子ども達。中には涙を流して登園する子ども居ましたが、すぐに慣れて今では笑顔でお部屋に入ってきて

くれます。

「おあよう」と覚えてのたどたどしい言葉の子、「〇〇おねえさん」と言いながらハグをしてくれる子、じつと見つめていたかと思うと急にニコッと笑ってくれる子、「昨日ねえ」とおしゃべりを始める子、「えつとね。うんと」と伝えたい思いがいっぱいの子と、「おはよう」の挨拶だけでも表現方法に個性が見られる大きい子組さんです。

その一人ひとりとじっくりと関わり、今は何が好きなのか、何をすると喜ぶのか、マイブームは何なのか等を把握しながら、子ども達の「すごい！」に

驚き、「できた！」を喜び、「やるぞ！」を応援して、子ども達と同じ目線で同じ世界を見る事ができたら嬉しいなと思って日々保育をしています。そして元気いっぱいの子も達からパワーをもらい、「困った時にはいつでも助けてくれる人」を目指して、この一年間を楽しく過ごし、思い出もたくさん作りたいと思います。

井上 結穂(保育士)



2025年4月号

宮さんの杜通信



2014年4月に開所した宮さんの杜は、この4月で12年目を迎えます！
開所当時は、室内にケーキの形のエアドームを設置し、皆さんをお迎えしました。
2017年2月、現在のドクターイエローのエアドームに代わり、多くの親子さんにご利用
していただいております。
さて1月から行われていた外壁修繕工事も無事終了し、外壁や雪板がきれいになりました。
ピカピカになった宮さんの杜に、たくさん遊びに来てくださいね！
4月下旬には、「おやこでこのぼり」のイベントを企画しています。鯉のぼりの工作や、
“5月5日の背くらべ”にちなんで、お子さんの身体測定も実施します。乳児用、幼児用の
身長計・体重計がありますので、ご希望の方はぜひご予約下さい！



● 三島市大宮町2丁目2-11 tel.055-991-0010



じゃじゃまる通信



2025.4

子どもたちのかわいい笑顔に誘われ、チューリップやたんぽぽなど春のお花が
色とりどり咲きました。令和7年度の“じゃじゃまる”も元気いっぱい
スタートしました。春夏秋冬それぞれの季節を感じながらリズム遊びをしたり
また、様々な素材を取り入れながら、楽しい製作活動をしていきたいと思ひます。
皆さんのご協力のもと感染症対策をしっかりと、安心して利用していただける
ような場所をご用意したいと思ひます。
今月のじゃじゃまるは、春を感じながら楽しく過ごしていきます。

ちょこっとコラム

～離乳食の基本の「き」～



生涯にわたる「食の基本」は、離乳期の大人とのかかわりが土台になります。
様々な言葉かけをしてもらい、適切な援助のもと、また周りの大人自身の食に対する
姿勢(おいしそう、楽しそう)を見て感じ取りその子自身の意欲を育んでいきます。
1人ひとりの発達と心に添った援助を確認し、日々の生活を充実させましょう。

● 恵明キッズフヨウビレッジ内
三島市芙蓉台2-3-17 tel.055-987-7922



フリップー通信



令和7年5月

新緑がまぶしい爽やかな季節になりました。
5月5日は「子どもの日」。こども園では手作りの鯉に、子どもたちが絵を描い
た鱗や、手形をつけた鱗を貼って、オリジナルの大きな鯉のぼりが完成しました。
大空を気持ち良さそうに泳ぐ鯉のぼり。のびのびと元気に遊ぶ子どもたちのよう
です。

*ちょこっとコラム ... たくさん遊ぼう！ ...



戸外で遊んだり、お散歩に出かけたりするのに気持ちのよい季節になりました。
公園へ出かけて体を動かして遊んだり、草花遊びや虫探しなど、この季節なら
ではの遊びや探検がいっぱいあります。お天気の良い日はお子様と一緒に、
公園でランチもいいですね！
季節を感じながら元気に遊び、よく食べよく寝て、健康な体作りにも繋がります。



● 恵明キッズサクラビレッジ内
三島市文教町2-28-6 tel.055-943-6878

子育て支援センター

それぞれの子育て支援センターの
“子育て支援センターだより”を紹介します。
地域の子育て親子さんたちが多数訪れ、
楽しく過ごしています。
今年度も楽しく利用できるよう、イベント等
用意し、スタッフ一同お待ちしております。



利用日:月曜日～金曜日 10:00～16:00
子育て相談、園庭開放も随時



ぽこ通信



R7.4

寒い冬からようやく暖かな陽射しがぽかぽかとふりそそぎ、春が訪れました。
桜の花も咲きそろい、子どもたちが歌う「はるがきた～はるがきた～」の歌声も
とてもうれしそうに保育園に響いています。
今年度のぽこも、暖かいぬくもりにいるような優しい雰囲気大切に、
たくさん笑顔に出会えるのを楽しみにしていきたいと思ひます。
どうぞ、よろしくお願いします。

☆ちょこっとコラム☆

～春の味覚・たけのこ～

「たけのこいっぱいおくれ～」 「ま～た、めがで～ないよ」と元気にうたいながらする
引き抜き遊び。春ならではの遊びです。たけのこは1300年ほど前の書物「古事記」にも
その名が出ており、昔から日本人の大好物だったようです。
炊き込みごはん、煮物、吸い物、天ぷら。今夜は春のたけのこ御膳はいかがですか？

● 恵明キッズコスモスビレッジ内
三島市谷田1629-38 tel.055-973-7778



ローズ通信

2025.5

新緑が眩しい季節になりました。5月は日差しがピークを迎えるので、熱中症対策をしてお出
掛けをしたいと思います。
今月の支援センターは、「なかよしローズまつり」を予定しています。ぜひご家族で遊びにいらし
て下さい。

☆ ちょこっとコラム ☆ ～ こいのぼり ～

最初にこいのぼりが登場したのは、江戸時代だそうです。現在のような色とりどりのこいのぼりは、
戦後とされています。
昭和39年東京オリンピックの翌に、五輪マークを見た職人が、カラフルなこいのぼりを作ったこと
が始まりのことです。
こいのぼりの色にも歴史を感じますね。



● 恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

恵明キッズ

フヨウ
ビレッヂ



小さな手

今年度も0、1歳児
つくし組を担当させて
頂くことになりました。
今年はどうな一年にな
るんだろうとドキドキ
しながら新しいお友だ
ちを迎えて賑やかにス
タートしました。両腕
で抱っこをしたり、ス
キンシップを沢山取り、
少しずつ慣れ、笑顔も
見られるようになって
きました。また、一年
前は泣いていたお友だ
ちが頭を撫でてくれた
り、おもちゃを持つて
きてくれたりとお世話
をしてくれて、優しい
気持ちで育っていて嬉
しく思い、成長
を感じます。



どと声を出して足をバタバタとさせて発見を喜んでいます。葉っぱ一枚でも不思議そうに観察し、大事に持ち歩いていきます。一つ一つの小さな発見を先生に一生懸命伝えてくれる姿が微笑ましく、とても可愛いです。小さな発見が、大きな宝物のつくり組さん。キラキラした目を見ると私も嬉しく思い、この笑顔



てくれたり、こんなことがあつたよ!と、おうちでの出来事をたくさんお話ししてくれ、朝からとても嬉しい気持ちになりました。新しいお友達も迎え、最

おはようございます！

を守つていきたいなと思ひます。

小さな手から色々なことを吸収して、日々成長している子どもたち。子どもたちからのメッセージを受け入れ、気持ちに共有し、沢山笑つて元気一杯ですごせるよう、一日一日を大切にしながら、丁寧な保育を心がけていきたいと思ひます。

土屋 由香(保育士)

暖かく気持ちのよい陽気と共に、新年度がスタートしました。「おはようございます。」と、元氣いっぱいの子どもたちの挨拶でフヨウビレッジの一日が始まります。今年度は、玄関でたくさんの子ども達、保護者の方とお話することが増えました。おうちの外に咲いていたお花を持ってき



初は泣いてしまったり、不安そうな表情をしていたお友だちも今では笑顔で元氣いっぱい登園できるようになりました。

進級をしたお兄さん、お姉さんはドキド

キーながら嬉しそうに様子の子どもたち、たくさんの表情がみられ、これからの一年がとても楽しみです。園で一番大きいふよう組さん!!富士山係では、一人で発表しなければいけない緊張感を感じます。頑張って発表している姿は、とても頼もしくみえます。ミツキー、ドナルドグループにわかれペアのお友だちをリードしてあげたりお着替えを手伝ってあげたり優しく色々なことも教えてくれます。また、サツカーを



子どもたちと
一緒に

四月の入園進級式から時が過ぎるのは早く、一ヶ月が経ちました。みんな一つお兄さん、お姉さんになり、変化した環境に毎日目を輝かせながら元気いっぱいに過ごしています。新入園児のお友達も、初めは不安で泣いていましたが、最近は先生や友達と関わり、少しずつですが笑顔が見ら

練習したり、お相撲竹馬などたくさんのごとに積極的に取り組みその日にやったことをとても楽しそうにお話ししてくれます。

毎日の子どもたちとの会話を大切にしながら一年間安全で健康に楽しく過ごしていきたいと思います。

柴崎 育実(保育士)

れるようになりました。

私自身がフヨウビレッジの先生になって一年が経ちました。一年目は保育士として仕事を覚える事に精一杯で、自分の事ばかりになってしまった気がします。一年が経ち今年も主に一、二歳児のクラスに入り、子どもたち一人ひとりと関わる事ができるようになりました。たんぼ組さんになっておやつを食べる時はナフキンを使うようになり、「おやつのはきはこれ使うの」「もうたんぼばさんだから」と伝えてくれました。他にもシール帳や排泄など出来るようになって事を笑顔でお話してくれる時は子どもの成長を感じます。つくし組のお友達は、言葉が少しずつできてお話をする事が増えました。こちらの言葉を理解して身振りと言葉で伝えてくれる様子はとてもかわいいです。子どもたちと日々を過ごしていく中で関わり方に悩む事もあります。活



市東 桜(保育士)



恵明キッズ

コスモス
ビレッジ

緊張感をもって

園庭の桜が咲きほこり玄関の前の花壇のチューリップが子どもたちを優しく迎えてくれています。風薫る5月、私が主任保育士となつて一ヶ月が経ちました。同時に玄関職員としても毎日子どもたちを迎えています。「おはようございます！」という元気なお友だち、入園したばかりで保護者との別れがつらく泣いてしまうお友だちなど様々です。子どもたちの気持ちや体調を把握し寄りそうこと、そ



れと同時に泣いている我が子を預けて仕事に行かれる保護者の気持ちに寄りそうことを大切にしています。またお迎えの時には、どちらもとびつきの笑顔になる瞬間、園であつたことや体調のことを伝えさらに笑顔になつていただくこと、家に帰つても子ども園のことを話題にしてもらうことなどみんなが笑顔になるお手伝いができたらと思っています。これからもしっかりと緊張感をもって頑張っていきたいです。

また主任となり、年長組さんと一緒に活動



又は園外活動に行かせてもらうことが増えました。中でもコスモス畑でのトマトの栽培やポテトバックを使つてのじやがいも栽培は子どもたちもとても楽しんで取り組んでいます。「わ！芽が出た！」

「葉がでてきたよ」と毎朝観察し、生長や変化を楽しむとともに「ピザにしたいなあ」と食べることも目標としています。

子どもたちの成長を支え見守りながら、おうちの方と共に笑顔になれる園生活が送れるよう毎日「またあした」と明日につながるハイタッチを大切にしていきたいです。

佐々木 いずみ

(主任保育士)

爽やかな春

爽やかな風に、暖かい日差し。外遊びやお散歩が楽しい季節になりました。今年度、0歳児クラスを担当させて頂き、早くも一ヶ月



が経ちました。初めてお家の方から離れ子ども園で生活をするお友だち。入園当初は、泣いてしまひ抱っこから下りられなかつた子も、今では、朝の検温が終わるとすぐに好きな玩具を指し示すやうな姿が目指してずいといやハイハイをしていく姿が見られるようになってきました。

0歳児クラスは、月齢によって成長過程が大きく違います。また、意思を伝える手段が喃語や泣き声、表情が主です。徐々に指差しやベビーサインと伝える方法が増えていきますが、今は目を離さず泣いてしまった時は、泣き声の違いにも耳を澄ませたり表情を確認しながら気持ちに寄り添い、代弁しながら不快な気持ちをを取り除いてあげること、力を注いでいます。

小さい子のクラスを担当するにあたり大切にしている事がいくつかあり、一つは、愛着関係をしっかりと築く事です。抱っこや触れ合い体操などでスキンシップを通して安心感を感じてもらいながら信頼関係の基盤を固めていきたいと思っています。色々な事に興味を持ち触ったりお口にに入れて確かめる時期でもあるので、まずは安全の確保が第一です。そして子どもたちの気持ちを共感しながら子どもたちひとりひとりの成長を見守り援助していきたいと思っています。

里見 沙織(保育士)

四月から
一ヶ月が過ぎて

新年度が始まり一ヶ月が経ちました。新しい環境でなかなか慣れない子供達はランチの時間、先生に補助してもらいながら一生懸命食べる姿が見られましたが、今ではフォークやお箸を自分で持ち楽しそうに食べている姿が見られます。

はランチルームと離れているため、中居ると子供達の様子がわからないのですが、ランチルームからの「いただきます」や「ごちそう様」の声や、ランチ・おやつを食べての歓声で今日は好きなメニューなのかなど声でわかる事があります。

また子供達が食べ終わった食器を片付けに行くと、「今日のランチ一番おいしかったよ」「お皿ピカピカにしたよ」と色々と話しかけてくれます。この瞬間、何年仕事をしてもこの仕事っていいなと思えます。

杉本 嘉美(栄養士)



恵 明 コ ス モ ス 児 童 セ ン タ ー



春休み、コスモス児童クラブに卒業生が来てくれて、小学生を対象にホバークラブ作りをやってくれました。事前準備をしつかりと計画してやってくれ、低学年から高学年まで幅広い年齢の子供たちが楽しめる製作活動でした。その日、センター利用で※遊びに来ていた中学生も一緒に手伝ってくれ参加してくれたので、みんなが楽しく有意義な時間を過ご

することができました。この製作活動を企画してくれた卒業生は4月から大学生になります。コスモス保育園を卒業してコスモス児童クラブで6年生まで過ごし、中学生、高校生になっても時間があればコスモスに顔を出してくれ、小学生と遊んでくれました。小学生からの信頼度も高く、まさしくお姉さんの存在です。他の卒業生も遊びに来

コスモス児童クラブの春休み

コスモス児童センターは、みんなが気軽に集い、また、異年齢の関係もうまく継続できる場所になりつつあることを実感しています。

これからも安全に配慮しながら、楽しい企画も取り入れて子供たちと毎日を過ごしていきたいと思っています。

脇 雅秀

(児童センター長)

※「センター利用」とは地域の子育て親子さん、高校生までの子供たちがコスモス児童センターの施設の室内や園庭の利用法です。近年、子供たちが安心して遊べる場所が少なくなり、コスモス児童センターではセンター利用の子供たちがとても増えています。子供たちが安心して利用できる居場所として、安全に配慮した環境設定、防犯対策、ルール等について随時確認していきたいと思っています。



子どもの心に還る

「私の童謡に少しでもまだ大人くさいところがあれば、それは私の歌がほんとうの子どもの心に還っていないのです。私の童謡は物心のついた少年少女よりも、もつと下の子どものものとして、素朴な子どもの感覚、子どもの心をうたっています。幼い時、母親たちから聞いたあの子守歌の節回しです。そして野山の木々のそよぎから生まれた純郷土的民謡です。ほんとうの童謡は、何よりもわかりやすい子どもの言葉で子どもの心を歌うと同時に大人にとって意味の深いものでなければなりません。なまじ、子どもの心を思想的に養おうとすると、かえって悪い結果をもたらすことが多いのです。大切なことは子どもに還ることです。」

〔北原 白秋〕



恵明キッズ サクラ ビレッジ



楽しい一日に
なりますように

「ローズビレッジの先生!」と子どもたちが声をかけてくれた4月3日。この春からサクラビレッジで勤務させて頂いています。ドキドキわくわくで始まった4月。まずは子どもたちとの関係作りを目標に、名前を覚えて呼びかけるようにしたり、バッグや上履きのキャラクターをきつかけに沢山話しかけるように心がけています。そんな中、さくら組さんと出



かけたワンワンバスお花見ツアー。満開の桜を見ながら「わあきれー桜のトンネルだ!」と一緒に笑い、感動した時間は、子どもたちとの距離がぐっと縮まったことを実感出来た時間でした。もう一つの目標は、園を「安心出来る・楽しい場所」にすることです。泣いて登園していた子が泣かずに来れるようになったり、赤ちゃんが先生たちの方へ手を伸ばしてくれるようになり、「安心出来る・楽しい場所」になりつつあるのかなと嬉しく思っています。これからも、子どもたちにとって園で過ごす時間が楽しく、

安心出来るものであつて欲しいと願っています。たとえ泣いて登園した日でも、園に来て楽しい時間を過ごし、「さようなら、また明日まで!」と笑顔で帰れるように。それが、これからの変わらない目標です。

室伏 宏美

(主任保育士)

新しい遊具が 来たよ!

今年も満開の桜の花と共に新しいお友だちが入園して来ました。1つ上のクラスに進級し不安と緊張している子どもたちも、一ヶ月が過ぎ毎日「おはようございますー」元氣良く登園しそれぞれのお



部屋へ向って行きます。どのお部屋からも賑やかな笑い声が聞こえて来ます。お外あそびの大好きな小さい子組の子ども達は芝生のお庭へ行く「先生ーダンゴ虫探しー」と集まって来て皆で芝生の中を覗き込み「ダンゴ虫いないなあ」と必死に探し見つけると「いたよーアリスさんーダンゴ虫」そつと捕まえて小さな手のひらに乗せて嬉しそうに見せてくれます。

そして、みんなの大好きな芝生のお庭に小さい子組さんのミニローラーすべり台が設置されました。4月上旬にお披露目会が行われ、園長先生と「順番を守って仲よく遊ぶ」お約束をした、たんぽぽ組さんーワクワクしながら滑る子、ドキドキしながらこわごわとそーつとすべっている子、様々ですが楽しく滑り台を楽しんでいます。

す。つくし組のお友だちも先生方に見守られて笑顔いっぱい楽しく過ごしています。サクラビレッジの園庭からは今日も元氣な子ども達のキラキラした笑顔と、笑い声が響き、楽しく遊ぶ姿があります。怪我なく安全に留意し遊べるように見守って行きたいと思っています。

植田 香(保育士)



縦割り保育

私が保育士になって5年目になりました。今まで、1年ごとに自分なりの成長や変化がありました。5年目になると、新しい後輩が入り自分の保育士としての立場や責任の重さがひしひしと感じられ、緊張感があります。この5年の間、コロナ

の期間もあり、職員の入れ替わりもしかり、保育も試行錯誤でやってきました。が、この4月からコロナ前の縦割り保育をたくさん取り入れ、ベテランの保育士が中心となつてみんなで子供たち全体を見ていこうというこ

とになりました。今までは年齢別でクラス単位での保育だったので、クラスごとの活動が中心となっていました。が、今度は縦割りグループでの活動が多くなりました。

実は、私自身も最初には困惑しましたが、この2か月が過ぎ、今では縦割り保育にして良かったと思っています。

あきらかに子供同士のかわりが増え、子供たちの中で「頼る、頼られる」という関係、異年齢児同士の関わり、そして何より先輩保育士から若い保育士へのアドバイス、職員同士の垣根を超えた連携がしやすい環境になったと実感しています。もちろん、製作など年齢ごとに指導しなければならぬものはクラスごとにやります。



私はその保育の中で、唯一の男性保育士で、責任ある立場だということを実感するようになりました。竹馬を作ったり、サッカーを教えたり、とりわけ元氣を子供に伝えるようにしています。子供たちの笑顔や「ゆう先生、竹馬作ってくれてありがとう」という言葉で、やりがいを感じます。

新しい年度が始まってまだ2か月ですが、これからも期待をもってみんなで協力して毎日を過ごしていきたいと思っています。

渡邊 優(保育士)



恵明キッズ ローズ ビレッジ

花いっぱい ローズ

ローズビレッジの玄関では、「新しいお花が咲いているね」「いつもお花がきれいね」と嬉しい声が聞こえ、親子で花壇をのぞいてお話ししている姿が見られます。昨年度、清水町で行われている『花いっぱい教室』のコンテストにて、ローズは「優勝」をいただきました。今年度もばら組のみんなに協力してもらいステキな花の作品になるよう挑戦しています。また、登降園の際、色とりどりの花を見て、皆さんに笑顔・元気な気持ちになっ



でもらえるような花壇づくりをしていきたいと思います。そして園庭の一角で育てているジャガイモ。ばら組のお友だち

が水をあげ「早く芽が出ないかな」と楽しみにしています。今後水やり、観察、収穫、クッキングなどの体験をしていきたいと思っています。私は今年度よりローズビレッジの主任となり、新たな気持ちで新年度を迎えました。四月始めの登園時は、おうちの方から離れる時に泣き出してしまったり、座り込んでしまったり、くつ箱を間違えてしまう子がいました。一ヶ月が経ち、今



一つ大きく なったよ

では泣いていた子がこちらに手を伸ばし抱っこを求め笑顔を見せてくれるようになったり、「一緒に行く」とお友

だちを誘う姿や「自分で持つ!」と大きな荷物をかかえお部屋へ向かっていく姿が多く見られるようになりました。これからも子ども達の成長していく姿を見守りながら、『早ね早おき朝ごはん』をモットーに、心も身体も元気いっぱい・笑顔いっぱいのローズビレッジにしていきたいと思っています。

杉本 裕美子
(主任保育士)



すみれぐみのお友だちの手を引き、園内探検で先導してくれました。その頼もしい姿は、園で一番大きいお兄さん、お姉さんそのものでした。ゆりぐみのお友だちは、居馴れたすみれぐみのお部屋に度々顔を覗かせ、「お手伝いしようか?」と言い、自分たちがしてもらっていたように小さなすみれぐみのお手伝いをすすんでしてくれました。また、初めてのドレミランドや体操教室もドキドキ、ワクワクした気持ちで取り組んでいます。そして、初めてがいっぱいのすみれぐみのお友だちは、優しいお兄

田代 香代(保育士)



さんやお姉さんに支えられ、大きい子ぐみの生活に少しずつ慣れてきました。一つ大きくなった、という意識が強くなり、「すみれさんだから。」が口癖のように、一人ひとりが「挑戦する」という気持ちを持っています。その気持ちがあるから「一人でできた」がどんどん増えていきます。心の底から沸き上がる前向きな気持ちを応援していきたいと思っています。これまでも沢山の子どもたちとの出会いがあり、成長を見守らせていただきました。子どもたちと関わる中で、「今、心と心が繋がった!」と感じる瞬間があります。信頼関係を築いていく一歩が見つかった、という感じですね。その一歩を積み重ね、これからも一人ひとりの子どもたちと良い関係を築いていき、心に寄り添った保育をしていきたいと思っています。

子ども達と ふれあい

ローズビレッジのキッチンでは、子ども達が元気に登園してくる玄関の近くにあり、先登園してくると真っ先にキッチンのをのぞき、「おはようございます。」と元気いっぱい挨拶してくれる子ども達に私達も元気が負けないよう、挨拶を返します。キッチンの手前にはいつも子ども達が大好きなフルーツが準備してあります。朝、保護者の方と離れる時が寂しくて泣いている子どもも先生に、抱っこをされるから小さく切ったら食べられるかな? など、子ども達の事を考えながらランチやおやつ

の準備をする時間が私にとっては大好きです。そして、「おいしかったよ。」「このランチ、また作って。」と言ってくれると本当に嬉しく思います。これからも、お家のようにホッと出来るようなランチルーム、毎日「おいしかったよ。」という言葉が聞けるような、ランチやおやつを作っていきたいと思っています。

杉本 さおり(栄養士)



新年度が始まった4月は泣いて登園する子どもが多かったように思いますが、一ヶ月が経った今では泣き声も聞かなくなり、園を楽しんでいる様です。登園してくる様子を見ながらランチの準備をしたり、子ども達がこのくらい大きさに切ったら食べやすいかな? などの野菜に苦戦しているから小さく切ったら食べられるかな? など、子ども達の事を考えながらランチやお

～法人70周年を迎えた年から毎年静岡恵明学園のカレンダーを作成しています～

2025年 静岡恵明学園 カレンダーより



子どもたちの健やかな成長を祈願し、
荒磯模様の手ぬぐいを作りました。
(波間を元気に踊る鯉～吉祥魚～を
デザインした柄。
鯉は龍門と呼ばれる急流を登り、
やがて龍になるという伝説があります)



1・2月
静岡恵明学園
児童部



3・4月
恵明キッズ
サクラビレッジ



5・6月
恵明キッズ
ローズビレッジ



7・8月
恵明キッズ
フヨウビレッジ



9・10月
恵明キッズ
コスモスビレッジ



11・12月
法人本部
赤ちゃんセンター